

安曇野滞在制作演劇作品

安住の地

第11回北海道戯曲賞

大賞受賞

(「かいころく - 工女編 -」)

か い こ

ろ く

工女編
蚕種編

多目的ホール

長野県安曇野市豊科 5609-3

@

安曇野市美術館

2026.1.31(sat) - 2.1(sun)

安住の地 かいころく

工女編／蚕種編

2026年 1月31日(土) 11:00／蚕種編

14:00／工女編

2月1日 (日) 11:00／蚕種編

14:00／工女編

脚本・演出：私道かび

出演：沢柳優大(蚕種編)

雛野あき(蚕種編)

山下裕英(工女編)

舞台美術：私道かび

音響：佐藤武紀

音響操作：片嶺穂乃佳

照明：河口琢磨

衣装：大平順子

宣伝美術：miuro

制作：山井浩気

企画：信州養蚕文化研究会

現地コーディネート：安曇野市教育委員会文化課

※各回30分前開場。上演時間【蚕種編】約80分／【工女編】約60分(予定)。

(一財)長野県文化振興事業団では本年度、京都を拠点に活動する劇団・アーティストグループ「安住の地」を招聘し、安曇野市教育委員会文化課と協働のもと、芸術家滞在施設「穂高鐘の鳴る丘集会所」(安曇野市穂高有明)にて演劇作品を創作するプロジェクトを実施しています。安住の地では2023年より、戦前日本の基幹産業であった養蚕業の民俗文化に光をあてた演劇作品「かいころく」シリーズを制作し、長野県内外にて上演を行ってきました。本公演では、2024年に上演し第11回北海道戯曲賞大賞を受賞した【工女編】と、今回新たに安曇野市に滞在しながら制作した【蚕種編】を上演します。両編とも、劇作家の私道かびによる安曇野市・上田市の養蚕関係者への取材をもとに制作された作品です。今なお養蚕のおもかげが各地に残る安曇野市。ぜひ足をお運びいただき、この地にあつたかつての人々の記憶に思いを馳せていただければ幸いです。

●劇作家より

はじめまして。劇作家の私道かびと申します。数年前から、木曾や岡谷、駒ヶ根、上田、そして安曇野など様々な土地で蚕にまつわるお話を聞かせてもらいながら、「かいころく」シリーズを制作しています。今回は、その中から新作を含めた2作品を上演します。「工女編」では、製糸工場で働いていた女性の数世代に渡るお話を、一人芝居として上演。昨年上田で上演し大好評いただき、念願の安曇野での上演となりました。「女工哀史」だけではない、働く女性の人生をぜひご覧ください。新作となる「蚕種編」は、蚕の卵にまつわるお話です。天蚕センターや蚕種会社への取材を基に、約5000年かけて家畜化されてきた「蚕」と人間の関わりを描きます。

●予約

WEB:右記QRコードからご予約ください。

TEL:0263-71-2463

(安曇野市教育委員会文化課/平日9:00-17:00)



安曇野市美術館 多目的ホール

長野県安曇野市豊科 5609-3

【電車の方】JR 大糸線豊科駅下車、
徒歩約 10 分。

【お車の方】安曇野 IC から約 5 分。
無料駐車場
(普通車約 100 台収容) 有。

●料金(当日会場精算)

1 演目券：一般 1,000 円／高校生以下無料

2 演目セット券：一般 1,800 円※

※蚕種編・工女編とも好きな回を選んでご覧いただけるお得なチケットです。

安住の地



京都を拠点に活動している劇団 / アーティストグループ。2017 年旗揚げ。演劇を軸に置きながら、音楽・写真・映像・ファッション など様々なカルチャーとコラボレーションし「ミクストメディア」な作品を発表し続けている。ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU”選出、金沢 21 世紀美術館「芸術交流共催事業アノド 21」選出、シアタートラム ネクストジェネレーション vol.11 選出などの実績がある。

主催：一般財団法人長野県文化振興事業団 文化を創る!職員提案プロジェクト 共催：安曇野市教育委員会
公演に関するお問合せ： t.fujisawa@naganobunka.or.jp ((一財)長野県文化振興事業団 藤澤)

